

# 代表者会議【資料 2－6】

## 茅ヶ崎市自立支援協議会報告書

標 題	第3回 医療的ケア児等への支援検討プロジェクト
日 時	令和6年10月29日（木）14時00分～16時00分
場 所	茅ヶ崎市役所分庁舎6階 コミュニティホール大集会室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会 生活相談室とれいん 榎園 貴子</li> <li>■ 神奈川県立茅ヶ崎支援学校 白井 和子</li> <li>■ 茅ヶ崎市・寒川町障害児通所事業所連絡会 遊びりパーク Lino' a 茅ヶ崎 大郷 和也</li> <li>■ 茅ヶ崎市・寒川町障害児通所事業所連絡会 ムーブメントリラ萩園 大鷲 敬</li> <li>■ 茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会 マザー湘南訪問看護そよかぜ 水野 美奈子</li> <li>□ manaの会 斉藤 美由紀</li> <li>■ manaの会 小山 陽子</li> <li>■ 医療的ケア児等コーディネーター 療養通所マザー・こどもデイサービスにじ 原田 純子</li> <li>■ 医療的ケア児等コーディネーター ちがさきの木魂 安田 のり子</li> <li>□ 社会福祉法人翔の会 児童発達支援センター うーたん 日高 義史</li> <li>■ 茅ヶ崎市教育委員会教育総務部学校教育指導課 大坪 督</li> <li>□ 茅ヶ崎市こども育成部保育課 松尾 岳彦</li> <li>■ （オブザーバー）湘南東部圏域ランチ 医療的ケア児等支援事業ぐータッチ 齋藤 祐二</li> <li>■ （オブザーバー）湘南東部圏域ランチ 医療的ケア児等支援事業ぐータッチ 齊藤 優子</li> <li>■ （事務局）医療的ケア児等相談支援センターノア 瀬川 直人</li> <li>■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 課長補佐 大八木 元</li> <li>■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 課長補佐 荒井 優広</li> <li>■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 副主幹 大畑 純子</li> <li>■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 主査 鈴木 敦之</li> <li>■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 主任 中村 知里</li> </ul>
<p>司会：茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 荒井課長補佐 書記：障がい福祉課 中村</p> <p>1 前回までの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回のプロジェクトにおいて各グループで作成した情報整理シートを、3枚にまとめた。</li> <li>・各グループから実際との差異や、作成して感じたことを意見していただいた（内容は前回議事録のとおり。）。</li> <li>・前回のプロジェクトにおいて、行政に関する部分が分からないとの意見が多かった。事前送付した情報整理シートは、行政に関する情報も整理してある。</li> <li>・情報収集後、課題整理をする際には、個別課題・地域（事業所）課題・社会課題の3つの課題に分類できるとのご意見をいただいた。</li> </ul> <p>2 グループワーク（情報整理シートから見えてきた課題・日ごろの業務や生活の中で感じている課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のプロジェクトでは、みなさんが感じている課題を3つの課題に整理していく。</li> <li>・初めに、個別に感じている課題や事業所で感じている課題を、付箋に記載（箇条書き可能）する。</li> <li>・模造紙に個別課題・地域（事業所）課題・社会課題の枠があるため、付箋を該当する場所に貼っていく。</li> <li>・ワークの中で気づいたことを各グループから発表する。</li> </ul> <p>3 発表</p> <p>（ア）3グループ</p> <p><b>社会課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア児を支える人材不足（医師、看護師等）。</li> </ul> <p><b>地域課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス提供者が少ない。</li> <li>・サービスがあっても、対象が限定的で使えないことがある。</li> <li>・セルフプラン率が高い：伴走者が少ない。</li> </ul>	

- ・保育園：通える場所が少ない。
- ・幼稚園：行政が関わらないため、どうしているのかが分からない。
- ・学校：就学に向けた支援・手続きが必要。

市内では10月に学務課から就学案内している。そこから医ケア児が相談しても、体制整備するには遅い。

#### 個人課題

- ・情報が入りづらい。
- ・当事者と家族が何に困っているのか情報が入りづらい。だからこそ今回個人課題が抽出しづらい。  
セルフプランの場合が多く、定期的なモニタリング等がされていないことの弊害でもある。
- ・親御さんが仕事を諦めなければならないことがある。

#### 個人課題かつ社会課題

- ・当事者同士の交流の機会が少ない。
- ・きょうだい児がいる家族や母子家庭への支援がより必要である。  
また、それら家族も含めて、緊急対応の体制整備が必要である。
- ・日本語が話せない外国人への支援体制が必要である。

#### (イ) 1グループ

- ・グループワークをした結果、社会・地域課題が多く挙がった。
- ・行政、医療、福祉の三つ巴で支援していくという体制はあるが、もう少し連携を強化した方が良い。  
→退院前のカンファレンスが要になると考えられる。  
計画相談の経験値の高いコーディネーターも入ってもらえると良い。  
委託相談が入って、ゆくゆくサービスを使う際に行政と繋がる仕組みが必要である。
- ・就学に向けた支援として、計画相談員や医療的ケア児等コーディネーターがしっかりついた方が良い。  
事業所間連携加算の制度が今年から開始となったため、積極的に利用していくのは1つではないか。
- ・社会資源が少ない：短期入所施設、日中一時支援等が少ない。
- ・災害時の支援が薄い：個別避難計画を立てる必要がある。  
→個別避難計画が立案されることで、医療的ケア児が在宅に避難しているということが周知される。  
また、それによる家族の精神的負担軽減が図られる。
- ・社会資源情報シートに記載されていることを支援者が把握していくと良い。
- ・医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律が成立・公布されたことにより、ここ2～3年で様々なことに変化がみられた。例えば、メディカルショートステイの体制整備がされたことは大きな変化と感じている。
- ・セルフプラン率が高いからこそ、当事者（家族）同士のつながりが強くなっているとも考えられる。

#### (ウ) 2グループ

- ・地域課題、社会課題に課題が集中している。
- ・グループワークをして挙げられた課題は次のとおりであった。
  - ①普及啓発：医療的ケア児が地域の人と身近な存在になるにはどうすればよいか。
  - ②チーム作り：家族支援・本人支援、医療との連携が必要。まだ機能しきれていない。  
集まるタイミングを意図的に作るのはどうか。健診があるように、小学校入学前等医療的ケア児が集まる機会があると良い（小学校入学を機に、他の家族との接点が密な家族とそうでない家族に別れやすい。）。集まることで情報交換ができると良い。  
ステージがかわる際や状態に変化が生じた際には支援が変わる。新しく加わったものが分断されることがないようにしていく必要がある。
  - ③資源不足：相談支援員が足りない。訪問診療、グループホーム等のサービスも少ない。
  - ④他職種への理解が乏しい
  - ⑤制度（介護保険制度と障害福祉サービスの違い、学校に訪問看護が入れない）の不備等。地域の努力でできることはないか。
  - ⑥地域の繋がりが希薄  
防災対策：医療的ケア児がどのように生活しているのかを、誰がみてもわかるように、支援学校で立案されているマニュアルをバージョンアップして24時間どこでもサポートできるとよい。
  - ⑦保護者の医療的ケアの知識に差がある
  - ⑧地域の学校にサポートができると良い

- 受け入れ学校へのサポートとして、学校に訪問看護が入れるようにする等の体制ができるとよい。
- 医療的ケア児の受け入れを学校は頑張ってくれているが、支援者支援が必要である。

### 4 講評

#### (ア) 齋藤祐二さんより

- 湘南東部圏域ナビゲーションで調査した結果、医療的ケア児(未就学13名、小学部25名、中学部10名、高等部7名)55名に対して、成人は17名であった。うち、未就学3名、小学部2名、中学部1名が人工呼吸器を利用している。
- 人も物もないものを作るとなると、お金と時間がかかる。どんなものを作るのかは慎重に考える必要がある。
- お子さんが成長するにふさわしい状況はどんな状況かを見極めた上で、そこに達するにはどうすればよいかを考える必要がある。
- 新しいものを作るのではなく、既存のものを変化させて(今あるものを活かす)できることもある。
- 情報は生ものである。情報をキャッチして適切に繋ぐことが大事。
- 3班とも個人のニーズが挙げられていない。当事者の実態をもう少し知るべき。誰のために支援を検討しているのかとなる。今関わっている人がそれぞれの立場で行っていくと良い。
- ニーズを把握したタイミングでコーディネーターへ連携していくと良いのではないかな。

#### (イ) 齊藤優子さんより

- 当事者の困り感を事業所がキャッチした際に、どう困り感に寄り沿って行くかが重要である。
- 困ったときに相談先がないと、相談者は困惑する。
- 受け入れ側の協力体制、支援体制が重要であり、それらが今どの程度なのかを把握する必要がある。今ある資源をいかに活用できるかという意識が必要である。
- 行政は、支援者への後方支援として何ができるかを考えていく必要がある。

### 5 その他

以下2つについて周知。

- 令和6年度湘南東部圏域医療的ケア児乳幼児期交流会(湘南東部圏域ぐータッチ及びつなぐ小山さんより)
- 医療的ケア児在宅レスパイト事業(市より)

次回日程:1月29日(14時から16時) 場所:分庁舎5階特別会議室